

授業概要

日本語の文章の書き方を基礎から学ぶ。毎回、辞書を片手に、ワークシートや作文などの課題に授業中に取り組み、作文は添削したものを次回以降の授業で返却する。論理的かつ学術的な文章を書けるようになることを大きな目標として、日本語表記のルールなどの基礎から学ぶ。

本授業は1年生の教養演習を終えている、2年生以上の学生の受講を想定しているが、1年生も逸早く受講することは可能である。また、人間文化学科以外の学生も受講することができる。

授業計画

第 1 回	ガイダンス・アカデミックライティングとは
第 2 回	仮名遣いなどのルール
第 3 回	句読点を使う
第 4 回	熟語などの難しい表現
第 5 回	漢字を使い分ける
第 6 回	表記を見やすくする
第 7 回	敬語を使う
第 8 回	手紙文を書く
第 9 回	Eメールの文章を書く
第 10 回	曖昧な文を書かない
第 11 回	語順を分かりやすくする
第 12 回	無用に長い文を書かない
第 13 回	構成の不自然な文を書かない
第 14 回	適切な接続表現を選ぶ
第 15 回	先に結論から述べる方法
第 16 回	まとめ①（試験日は通常授業実施）

到達目標

大学生として必要な論理的かつ学術的な文章を書く能力の基礎を身につけることを目標とする。

履修上の注意

遅刻・欠席はしないようにしてほしい。授業では毎回、課題（ワークシート、作文）に取り組む。授業内容は積み上げていく方式なので、欠席すると次回の授業内容についていけなくなる恐れがある。国語辞書（紙の辞書でも電子辞書でもよい）を毎回持参すること。

予習・復習

予習は、前回の授業内容を振り返ること。復習は、返却された作文を見直すこと。

評価方法

課題（ワークシート、作文）（50パーセント）、その他受講態度等（50パーセント）で評価する。

テキスト

教科書は使用しない。その都度、授業資料を配付するので、資料をなくさないように管理すること。

授業概要

レポートや論文の書き方を指導します。慣用句・表記・品詞の使い方・表現技術など文章を書くための基礎から文の作成をへて、段落構成・導入・事例のあげ方・結論といった文章全体の組み立て、文章の流れ、そして文章のマナーや読み手に伝わる書き方に至るまで、文章を書くための様々な知識や技術について指導します。

短作文・長作文作成をへて、最終的には資料を参考に自分の意見も主張しながら論文を書く指導を行います。どのようなテーマであっても、読み手に伝えられるようにわかりやすく、なおかつ自分の意見を入れて書くことを目標として指導します。

「日本語の運用」に接続する形で授業を行いますので、春期の「日本語の運用」履修者の受講が望ましいです。教育者・保育者養成を視野に入れておりますので、子ども発達学科の学生の受講が望ましいです。

授業計画

第 1 回	書くこと①—国語表記の基準、適切な表現
第 2 回	書くこと②—修辞法
第 3 回	書くこと③—待遇（敬語）表現・文末表現
第 4 回	書くこと④—推敲、一文を書く
第 5 回	書くこと⑤—一文を書く、文と文をつなぐ
第 6 回	書くこと⑥—主題文をつくる
第 7 回	書くこと⑦—材料を集める
第 8 回	書くこと⑧—構成を考える
第 9 回	書くこと⑨—短作文1—身近なテーマから
第 10 回	書くこと⑩—短作文2—論理的な文
第 11 回	書くこと⑪—短作文3—教育をテーマとして
第 12 回	論文①—言葉について
第 13 回	論文②—時事問題についての論文 1—現代の社会状況について
第 14 回	論文③—時事問題についての論文 2—現代の国際状況について
第 15 回	論文④—時事問題についての論文 3—教育をテーマとして
第 16 回	総まとめ（期末試験）

到達目標

文章を書くことへの抵抗感をなくしてゆきます。文章表現の基礎を学習し、表現力を身につけます。あるテーマについて自分で調べ、調べたことをまとめ、自分の考えを入れながら、論理的な文章を書く力をつけます。

履修上の注意

文章、そして論文を書く力をつけたいという強い意志を持って授業に臨んでください。最終的には時事問題等について論文を書きますので、常に自分で考える姿勢で受講し、また、社会や教育の動きには興味関心を持って臨んでください。提出物が出ていなければ、評価できません。

遅刻は20分以内までとし、遅刻3回で欠席1回とします。

「日本語の運用」に継続する形で授業を行いますので、「日本語の運用」履修者の受講が望ましいです。教育者・保育者養成を視野に入れておりますので、子ども発達学科の学生の受講が望ましいです。

予習・復習

論文等の課題を出しますので、必ず仕上げて提出してください。

評価方法

授業態度・発言・提出物（テキスト、論文）・コメント・期末試験等で総合的に評価します。なかでも、テキスト・論文は評価の比重が高いので、注意してください。

期末試験 50%、課題 30%、受講態度 20%

テキスト

資料は、授業内で指示します。